

記事内容

- ☆平和行動 in 広島
- ☆平和行動 in 長崎
- ☆夏休み親子・ファミリー自然体験プラン in 尾瀬/
女性のためのSTEP UPセミナー
- ☆地域活性化フォーラム/9月の行動予定表/
ジェンダー標語
- ☆あけぼのビル

2026平和行動 in 広島・in 長崎

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～



平和行動 in 広島

8月4日(火)から6日(木)にかけて「平和行動 in 広島」が開催され、連合埼玉から12名が参加しました。

1日目は、呉市に所在する「てつのくじら館」を見学し、呉市における海軍および海上自衛隊の歴史について学びました。

2日目は、広島平和記念公園内の「原爆の子の像」で折り鶴を献納し、「本川小学校平和資料館」において地元ガイドによる説明を受けました。続いて予定されていた「広島ピースウォーク」は、当日の広島市内における猛暑のため、熱中症予防の観点から中止となりました。午後は、連合主催の「平和ヒロシマ集会」に参加し、

被ばく体験者の方から貴重な体験談を伺いました。その後、高校生平和大使による「ビリョクだけどもリョクじゃない!」という力強いメッセージを受け、参加者一同、平和への思いを新たにしました。

最終日は、広島市主催の平和記念式典に参列し、原爆投下時刻である8時15分に、犠牲となられた多くの方々へ黙祷を捧げました。

唯一の被爆国として、これまでの運動を継承し、戦争の実相を次世代へ語り継ぐとともに、平和を願うすべての力を結集し、政府および国際社会に対し核兵器廃絶を強く訴え、恒久平和の実現をめざしていきます。

日程

- 1日目(8/4) ■ピースウォーク①**
時間 15:15～17:20
会場 てつのくじら館
- 2日目(8/5) ■ピースウォーク②**
時間 9:30～11:00
会場 本川小学校平和資料館
■連合2026平和行動 in 広島「ピースウォーク」
猛暑のため中止
(当該時間は各自自由行動※平和記念資料館見学など)
■連合2026平和ヒロシマ集会
時間 16:00～18:00
会場 広島上野学園ホール
- 3日目(8/6) ■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」(広島市主催)**
時間 8:00～
会場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前

参加者

- | | |
|-------|---------------------------|
| 宮崎 薫乃 | UAゼンセン/ハイデイ日高労働組合 |
| 萩原 頌子 | UAゼンセン/ハイデイ日高労働組合 |
| 谷澤 昌宏 | 自動車総連/オートテックジャパン労働組合首都圏支部 |
| 田村 英男 | JAM埼玉/日本鋳鉄管労働組合 |
| 岩野 隆一 | 情報労連/NTT労働組合インフラネット分会 |
| 山下 隆太 | 情報労連/NTT労働組合インフラネット分会 |
| 大室 元信 | さいたま市地協/JR東労組大宮地本さいたま地域支部 |
| 葛西 博行 | 県央地協/UDトラック労働組合 |
| 渡邊 将貴 | 東部地協/日本鋳鉄管労働組合 |
| 室伏 真二 | 青年委員会/ヤマト運輸労働組合埼玉支部 |
| 佐藤 紀子 | 女性委員会/本田技研労働組合埼玉支部 |
| 矢島 規雄 | 連合埼玉副事務局長 |

①今回、連合平和行動(沖縄、広島、長崎、根室)に参加したのは何回目ですか？

②今回参加された感想

①初めて

②今回初めて参加させていただきました。戦争や原爆を実際に経験した方や、今の若い世代の子達がどのように受け止めているのか、お話を聞けることはとても貴重で、ありがたい経験をさせていただきました。特に、若い学生の方たちが、自分のおばあちゃんおじいちゃん世代の思いを受け取って、演説や署名活動に積極的に参加している姿が印象的でした。2日目に体調を崩してしまい、途中から離脱してしまったのがとても悔しく、また参加できる機会があったらぜひ参加させていただきたいです。また、組合の活動自体が初めてだったのですが、皆さんフレンドリーに優しく接してくださってとても感謝しています。今回の活動と経験を、今後の組合活動や私生活にも活かしていきたいです。ありがとうございました。



宮崎 薫乃

①初めて

②今回、平和行動に初めて参加させていただきました。これまで戦争や原爆については学生時代の社会科の授業で学ぶ程度で、埼玉生まれ埼玉育ちの私にとっては、どこか他人事のように感じていました。しかし今回、原爆ドームや本川小学校、平和記念資料館を訪れ、自らの目で見て学ぶことで、戦争の悲惨さや原爆被害の実態を改めて深く知ることができました。また、被爆者の体験証言は、これまで授業などで学んできた内容とは比べものにならないほど壮絶で、大変衝撃を受けました。平和行動への参加を通じて、平和の尊さについて今一度考え直す貴重な機会となりました。今回学んだことや感じたことを若い世代や埼玉県内の多くの方々へ伝えていくことが、自分にできる平和への取り組みの第一歩になると感じています。



岩野 隆一

①初めて

②今回初めて平和行動に参加させていただき、とても貴重な経験が出来ました。実際の場所へ行き、実際に81年前に日本で起きたことのお話を聞く事が出来て今私に何ができるのか？どの様に生活していけばいいか？ということを考えるきっかけになりました。今より、より良い生活ができる様に、会社の中でもこの様なことを組合活動で行なっていることを伝えていきたいと思いました。また、来年も長崎、沖縄、根室と参加してみたいと思いました。貴重な経験をありがとうございました。



萩原 頌子

①初めて

②平和行動に連合埼玉の一員として参加し、初めて広島を訪れました。戦争について学んだのは小学生の頃が最後であり、今回の参加は平和について改めて考える大変貴重な機会となりました。式典への参加に加え、原爆ドームや平和記念資料館を見学しました。展示されている資料からは、原爆によって、多くの人々の日常が一瞬で失われた現実には衝撃を受けました。最も印象に残ったのは、被爆者の方による体験談です。実際に経験された方の言葉には重みがあり、当時の悲惨な状況が強く心に残っています。当時は人権が十分に尊重されず、人命も軽視される時代であったことを改めて実感しました。一方、現在は多様性を認め合い、人権を尊重する社会づくりが進められています。この平和な社会は決して当たり前のものではなく、多くの犠牲の上に成り立っているのだと実感しました。今回学んだことを忘れず、この平和な時代を大切に、次の世代や身近な人へ伝えていきたいと思います。



山下 隆太

①初めて

②初めての参加でしたが、戦争や原爆に対して改めて学ぶ良い機会となりました。今頃はインターネットで簡単に情報が手に入る時代ですが、現地で参加することはとても意義があると感じました。折鶴の献納は毎年行っておりましたが、実際に自分で現地に納めることができたことも、とても貴重な経験となりました。平和ヒロシマ集会では、被爆者の方のお話を聞くことができ、当時の様子を想像し胸が熱くなりました。日本が二度と戦争に巻き込まれないように、世界中から戦争がなくなるように、そして一日でも早い核兵器廃絶へ向けて、私たち一人ひとりができることを続けていく大切さを感じました。また、平和記念式典の参列者が年々増加しているとのことで、国内外からの関心の高さも改めて知ることができました。



谷澤 昌宏

①5回目

②単組含め何回か広島には参加させていただきました。平和記念資料館は来るたびに变化していて悲惨さが少し薄められて悪い意味できれいになっていくと感じました。平和公園周辺や資料館に外国の方が多くいるのが印象に残りました。また、平和集会の切明さんの講演で話されていた「本当に勝てるのか？」と疑問に思っても言えなくなる状況がとても怖く感じました。都合の悪いことは報道もされず疑問も、もてなくなります。そして動物などあらゆる物が全て戦争の道具として犠牲になっていきました。私たちが歴史を学ぶ意味はまさしく「過ちを繰り返さない」ためだと思います。平和の最大の敵は無関心だと思います。最大の敵に打ち勝つために広島で学んだことを単組で広めていきたいと思っています。



大室 元信

①3回目

②今回、初めて広島の平和行動に参加をさせていただきました。原爆ドームを近くで見ることは初めてで、原爆の悲惨さを目の当たりにしました。「平和ヒロシマ集会」では、高校生平和大使のみなさんが堂々たるスピーチを行っておいりました。特に印象深いお話が核兵器反対運動を海外でも行っていることでした。このような悲劇を二度と起こしてはならないと凄意を感じました。この平和行動で体験したことを忘れずに私なりにできることを行いたいと強く思いました。



田村 英男

①初めて

②広島平和行動に参加して、改めて平和の大切さと、戦争の悲惨さを次世代へ伝えることの重要性を感じました。資料館の当時の物品や写真を通して原爆による被害の大きさを知るだけでなく、実際に広島の地を訪れ、当時の出来事や被爆された方々の思いに触れたことで、これまで以上に身近な問題として考えることができました。戦争や核兵器の問題は、決して過去の出来事ではありません。今も世界では争いが続いている中、一人ひとりが平和について考え、平和行動で感じたことを忘れず、日々の生活の中でも相手を思いやり、平和な社会づくりにつながる行動を心掛けていきたいです。



葛西 博行

⑬回目

②沖縄、長崎、そして今年は広島に参加させてもらいました。今年は猛暑の為、ピースウォークが中止になってしまいました。平和公園、本川小学校の視察、平和ヒロシマ集会、平和祈念式に参加できました。私たちは戦争を経験していません。世界では戦争は続いています。ニュースの中の出来事だけになってしまっています。戦争を経験された方たちの話を聞ける最後の世代の私たちが戦争で何が起きたか、過去の出来事と終わらせない為にも後世に繋げていきます。



室伏 真二

①初めて

②この度初めて平和行動に参加をして、修学旅行(21年前)で被爆されたお話や資料館で学んだ事は自分の中で風化していたのだと感じ、被爆建物や資料館での当時の写真、展示物等を目の当たりにして広島で起きた悲劇、悲惨さと核兵器の恐ろしさを改めて痛感いたしました。又、被爆された方のお話を聴き、写真や文章では伝えられない当時の鮮明な記憶に衝撃を受けました。広島に原爆が投下されたのは、1945年8月6日です。被爆された方も平均86歳となり、お話を聴ける機会も減ってきています。戦争を直接経験していない世代が増え、当時の出来事を忘れず、原爆の記憶を後世に伝え、戦争や核兵器のない平和な世界をつくるために考え続ける事が大切だと感じました。



渡邊 将貴

①初めて

②広島を訪れ、原爆ドームや本川小学校平和資料館を見学したことで、戦争や原爆の悲惨さを改めて実感しました。特に印象に残ったのは8月6日に参加した平和祈念式典です。国内外から多くの方が集まり、暑さの中でも平和への祈りを捧げる姿から被爆から80年を迎えた今もなお平和への思いが受け継がれていることを強く感じました。また、映像や記事では伝わらない現地ならではの熱量を感じました。子ども代表の「戦争体験者から直接話を聞くことができる最後の世代」という言葉が特に心に残り、戦争の記憶を次の世代へ伝えていくことの大切さを改めて考える機会となりました。平和は当たり前ではなく、多くの人の願いによって支えられていることを実感した3日間でした。



佐藤 紀子



てつのくじら館にて



折り鶴の献納

折り鶴の献納



平和ヒロシマ集会会場



原爆ドーム前にて



被爆者体験談の様子



ピースフラッグ

平和行動 in 長崎

8月8日(土)～10日(月)に「連合平和行動 in 長崎」が開催され、連合埼玉から9名が参加しました。初日には、連合主催の「2026平和ナガサキ集会」に参加し、被爆者の訴えでは、当時3歳だった松本 美都恵氏より、母親におんぶされ、その背中から降りた瞬間(爆心地より約4km)での被爆体験談を聞きました。そして、長崎大学核兵器廃絶研究センター長の吉田氏から「変わる国際秩序と核兵器」をテーマに基調講演を聴きました。

翌日8月9日(日)には、連合埼玉の多くの仲間から預かった折り鶴を平和公園へ献納し、その後「被爆81周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参加しました。81年前、まさに原爆が投下された時刻の11時02

分に式典参加者全員で黙とうをおこないました。その後は連合長崎の仲間が説明してくれる、原爆落下中心地公園・平和公園内のモニュメント・碑を巡る「ピースウォーク」に参加し、今に残る、原爆の爪痕を目の当たりにしました。

これまで被爆者の方々は、核兵器廃絶を訴えながら、長い、苦しい時間を過ごしてこられました。81年前、長崎でもがき、苦しんだ人たちに思いを馳せた時、『二度と繰り返さない』『この地球上に核兵器はいらない』と誰もが感じるはずです。参加された方々にとっては、これから先、忘れることのできない記憶になるとともに、「平和行動」の重要性を身をもって感じる事ができた3日間となりました。

日 程

- 1日目(8/8) ■連合2026平和ナガサキ集会**
 時 間 15:30～18:00
 会 場 長崎県立総合体育館・メインアリーナ
-
- 2日目(8/9) ■被爆81周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典**
 時 間 10:30～11:45
 会 場 長崎市平和公園
- ピースウォーク**
 時 間 14:00～16:30
 会 場 原爆落下中心地公園・長崎市平和公園

参加者

- 木村 卓雄 (川越・西入間地協/JP労組川越支部)
 正能 武 (朝霞・東入間地協/東京電力労働組合川越支部)
 岩間 大和 (朝霞・東入間地協/テクセンドフォトマスク労働組合)
 亀井 毅 (比企地協/ボッシュ労働組合)
 家城 悠伍 (西部第四地協/ホンダロジスティクス労働組合)
 岩田 政和 (西部第四地協/JP労組埼玉支部)
 佐藤 舜 (青年委員会/北川鉄工所労働組合)
 松本 英恵 (女性委員会/JAM埼玉)
 小林 孝彰 (連合埼玉副事務局長)

①今回、連合平和行動(沖縄、広島、長崎、根室)に参加したのは何回目ですか？

②今回参加された感想

①2回目

②平和行動に参加し、改めて平和の大切さと、戦争の悲惨さを風化させずに次の世代へ伝えていくことの重要性を感じました。

被爆から長い年月が経ち、戦争や原爆を直接体験した方々が少なくなる中で、私たちがその記憶や思いを受け継いでいくことがより大切になっています。今回の平和行動を通じて、過去の出来事を知るだけでなく、被爆者の方々の声に耳を傾け、平和について考え続けることが必要だと感じました。

また、平和を築いていくためには、立場や考え方の違いを超えて、お互いの思いを伝え合う「対話」が大切だと感じました。対話を重ねることで相手を理解し、違いを認め合うことが、争いをなくす第一歩になると思います。今回学んだことや感じたことを自分の中だけにとどめず、家族や仲間、次の世代にも伝えていきたいです。これからも対話を大切にしながら、平和の実現に向けて自分にできることを考えていきます。



正能 武

①2回目

②3日間の行動を通して、連合本部主催の「2026平和ナガサキ集会」や長崎市の「被爆81周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参加しました。

様々な立場の方たちが、原爆の悲惨さや平和の大切さを訴えていましたが、被爆をされた方たちの言葉に勝るものはないと感じました。

自組織の中で、平和やそれを維持するための政治の重要性を発信するようにはしていますが、現地での見聞が重要性を実感する一番の方法だと考えます。

今回の参加を機に、平和を意識するきっかけをつくれるように、組織の中で発信していきたいです。

一緒に参加をした連合埼玉の皆さんをはじめ、同席した連合群馬の皆さんにも良くしていただきました。

仲間がいることを実感できた行動でもあり、貴重な機会がありました。



木村 卓雄

①2回目

②平和ナガサキ集会や平和祈念式典、ピースウォークを通して、平和の尊さと命の大切さについて深く考える機会となりました。平和ナガサキ集会では、被爆の実相や被爆者の思いに触れ、戦争が人々にもたらす悲惨さを改めて実感しました。平和祈念式典・ピースウォークでは、慰霊碑や平和祈念像を前に、多くの尊い命が失われた歴史の重みを感じました。この研修で学んだことを忘れず、一人ひとりが平和な社会づくりに貢献していくことの大切さを心に刻みたいと思います。



岩間 大和

①2回目

②長崎での平和行動に参加し、平和祈念式典への参列や被爆遺構の訪問を通じて、平和の尊さと継承の重みを肌で実感しました。式典での黙とうの瞬間、街全体を包む静けさの中で、原子爆弾がもたらした被害の大きさと失われた命の尊さに胸が締めつけられました。爆心地公園や周辺に残る生々しい記録を前に、過去の悲劇を決して風化させてはならないと強く思いました。遠い過去の出来事ではなく、現代を生きる自分たちの課題として戦争の悲惨さと向き合う重要性を実感しています。平和とは自然に維持されるものではなく、一人ひとりが対話を重ね、作り続けるものだと思います。現地で感じた祈りの重みを胸に、職場での対話や日常の行動を通じて平和な社会を次世代へ繋ぐ責任を果たしていきたいです。



家城 悠伍

①初めて

②資料や話を聞くだけでなく、実際に現地を訪れて展示されている当時を再現したものが、過ちを二度と繰り返さないための願いが込められて作られたものを見て改めて戦争というものの残酷さ、醜さに触れました。式典には全国から参加者が集まり黙祷や献水がおこなわれましたが、語り手が減っていることを痛感しました。これから戦争をしていない世代が後世に伝えていくことになるが、託されたものをきちんと渡して継続していかなければならないと思いました。



岩田 政和

①初めて

②今回、初めて「平和行動in長崎」に参加させていただきました。連合2026平和ナガサキ集会では、実際に被爆された方から貴重なお話を直接聞くことができました。実際にお話を聞いて、とても悲しい気持ちになると同時に、核兵器や戦争は決してあってはならないものだとして強く認識しました。平和祈念式典では、被爆81年という歴史の転換期を迎え、被爆者が一人もいなくなる時代がそこまで来ているというお話がありました。私はまだ31歳ですが、貴重な体験をさせていただいたことで、平和について改めて考えるきっかけとなりました。これからは、今回聞いたお話や感じたことを後輩や若い世代の人たちにも伝えていきたいです。核兵器や戦争の悲惨さを決して忘れず、「平和とは何か」をみんなで考え、対話しながら、これからも平和の大切さを語り継いでいけたらと思います。



佐藤 舜

①初めて

②初めての平和行動でした。連合平和ナガサキ集会では、全国の連合の仲間が多く参加され、連合の平和への取組姿勢がうかがえる内容でした。長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典は、会場内へ参加させていただきました。いろいろな方の平和への願いをききましたが、首相に賓挨拶の中で言われていた核兵器廃絶が、日本として現実に取り組みしていけないことで核兵器廃絶への道のりを遠く感じました。ピースウォークでは、今に残る原爆資料から当時の悲痛な状況を感じ取れました。「長崎を最後の被爆地に」



亀井 毅



参加者のみなさん



折り鶴献納

①初めて

②平和行動に参加し、改めて平和の尊さを考える貴重な機会となりました。初日の連合2026平和ナガサキ集会では、84歳の被爆体験者・松本さんのお話を拝聴し、被爆から81年が経過し体験者が高齢化する中で、その言葉の重みを強く感じました。また、大学生や高校生による平和アピールでは、「対話」の大切さと「ビリョクだけどもリョクではない!」という言葉が特に印象に残りました。翌日の平和祈念式典では、TVでよく見る光景であるテント下の椅子席で参列し、原爆投下と同じ11時02分に黙とうを捧げました。その時、長崎の方々の平和への強い願いに触れ、平和を守る責任を改めて実感しました。ピースウォークでは平和公園内5か所で説明をきき、戦争のむごさと恐ろしさを感じました。長崎を最後の被爆地とするため、私自身も対話を大切に、微力でも行動を続けていきたいです。貴重な体験をありがとうございました。



松本 英恵

夏休み親子・ファミリー自然体験プラン in 尾瀬

「ネットワークSAITAMA21」運動では、7月18日(土)から19日(日)にかけて、構成組織の組合員とその家族、事務局をあわせた15名で、尾瀬の自然に触れながら自然の大切さや保全の重要性を学ぶ機会として「夏休み自然体験 in 尾瀬」を開催しました。

1日目の昼食は「かもしか食堂」にてそば定食を堪能しました。その後、ガイドの方から尾瀬の自然について説明を受けつつ、参加者は木道を元気に歩きました。朝から小雨が降り天候が心配されましたが、ガイドの案内のもと安全に行程を進め、16時すぎに東電小屋へ無事到着しました。



鳩待峠にて



東電小屋



尾瀬木道



尾瀬ガイド説明

2日目は、8.8km先のゴールを目指して出発しました。最後に待ち受ける急な登り坂も全員が自力で踏破し、無事に鳩待峠へ到着しました。心地よい疲労と達成感の中、参加者はソフトクリームや冷たい飲み物で疲れを癒していました。

今回の自然体験は曇り空の下での行程となりましたが、ちょうどこの時期はニッコウキスゲが鮮やかに咲き誇り、広大な景色を楽しむことができました。尾瀬の豊かで雄大な自然を存分に満喫するとともに、その自然を人の手で損なうことなく保全していくことの重要性を改めて感じる機会となりました。

女性のためのSTEP UPセミナーを開催!



集合写真

女性委員会は、8月24日(月) あけぼのビル5Fにて、各構成組織および幹事・事務局をあわせて30名のご参加をいただき、「女性のためのSTEP UPセミナー」を開催しました。ご参加いただきました皆様に、心より感謝を申し上げます。

まずセミナーの冒頭、主催者を代表して女性委員会佐藤委員長より、セミナー参加への感謝とセミナーの趣旨をふまえた挨拶がされました。

アカリンク合同会社 代表社員 相馬正伸氏のご講演では、「AIで実務の効率化、創造性を倍に」実践編～「知る」から「動かす」へ～をテーマにおこないました。

まず、前回の「入門編」の振り返りをおこなった後、AIと共創する働き方について実践を交えて分かりやすく解説していただきました。特に「Chatモード(即時対話)」「Workモード(自律代行)」「Codexモード(開発エージェント)」という3つの役割について、具体的な操作実演を取り入れながらご講演いただきました。AIを「共に考え、共に業務を進める良きパートナー」として活用できるよう、明日からの業務に活かしていきたいと思います。

当女性委員会では、今後も役員がいきいきと活躍できる一助となるようなセミナーを継続して開催してまいります。



相馬 正伸 氏



佐藤委員長

公労使で取り組む『働き方改革』で地域の活性化を目指そう!

2026地域活性化フォーラム開催

2026年7月29日、大宮ソニックシティにて、連合埼玉、埼玉県経営者協会、埼玉労働局、埼玉県共催による「2026地域活性化フォーラム」を、総勢49名の参加のもと開催しました。第1部では、埼玉大学大学院 人文社会科学部 教授 博士 金井 郁氏をお招きし、「企業の人事制度改革による人材競争力の強化」と題し、人間が生きる社会が持続するためのケアを確保・保証する必要性について基調講演をおこないました。

第2部では労使双方からの働き方改革の事例として企業側は、リズム株式会社 管理本部 人事総務部 部長 山崎 新司 氏から「リズムにおける働き方改革×DEI」を、また組合側からは、自動車総連埼玉地協 議長

迫 幸太郎 氏から「自動車産業における現状と課題」について報告をいただきました。事例報告後、主催者代表として、今井会長から、「採用動向の変化と人事制度の歴史的振り返りにふれ、労働組合として、産業の安定化に寄与していく」意向が述べられ閉会しました。



事例報告 迫 議長



主催者閉会挨拶 今井会長

現在予定される9月の日程表です

9月	連合埼玉・事務局	行事等
1日 火		第3回連合オルガナイザー会議(13:30～・連合会館)
2日 水	埼玉シニア連合「第6回四役会・第6回幹事会」(13:00～・14:10～・連合埼玉)	第3回連合オルガナイザー会議(9:30～・連合会館)
3日 木		①埼玉労福協「第3回地域労福協代表者」(13:30～・中央労働金庫埼玉本部) ②埼玉労福協「第3回地域労福協政策制度会議」(15:30～・中央労働金庫埼玉本部)
4日 金	平和行動 in 根室(～6日・根室市)	①令和8年度第3回強い経済の構築に向けた埼玉県戦略会議(13:15～・知事公館) ②埼玉県生産性本部「会員交流研修」(13:30～・埼玉会館) ③熊谷・深谷・寄居地域協議会「第6回幹事会」(18:15～・秩父鉄道労働組合会館)
5日 土	災害ボランティア救援隊員研修・中級(13:30～・あけぼのビル)	
6日 日		
7日 月		
8日 火	①連合埼玉「第10回四役会議」(10:00～・ときわ会館) ②連合埼玉「第10回執行委員会」(13:00～・ときわ会館)	こくみん共済 coop 埼玉推進本部事業報告会(16:10～・ときわ会館)
9日 水		①第4回地方連合会事務局長会議(13:30～・全電通労働会館) ②九都県市首脳会議政策要請(11:00～・相模原市) ③連合関東ブロック「第4回幹事会」(16:00～・連合会館)
10日 木	ネット21運動「第5回運営委員会」(10:00～・連合埼玉)	こくみん共済 coop 「第1回正副委員長会議」(13:30～・こくみん共済 coop 埼玉推進本部)
11日 金		①情報労連埼玉県協議会「第57回定期大会」(15:30～・THE MARK GRAND HOTEL) ②県央地域協議会「幹事会」(18:30～・ろうきん上尾支店)
12日 土	埼玉シニア連合「第13回ボウリング大会」(10:00～・浦和スプリングレース)	①連合関東ブロック連絡会×中央労働金庫「奨学金オンラインセミナー」(10:00～・WEB) ②電機連埼玉地協「第66回定期大会」(13:00～・ときわ会館) ③運輸労連埼玉連合会「第59回定期大会」(13:00～・彩の国すこやかプラザ)
13日 日		
14日 月	第34回チャリティーゴルフ大会(おむらさきゴルフ倶楽部)	
15日 火	①連合埼玉金属部門連絡会「第3回幹事会」(15:00～・連合埼玉) ②2026年度政策・制度埼玉県要請(16:45～・埼玉県庁)	①連合関東ブロック連絡会「海外交流視察」(～18日・マレーシア) ②2026全国高齢者集会(12:30～・文京シビックセンター)
16日 水	第4回組織委員会(14:00～・連合埼玉)	日本退職者連合「2026年度地方代表者会議」(9:00～・ルポール麹町)
17日 木		
18日 金		JAM北関東「第28回定期大会」(14:00～・19日・きぬ川ホテル三日月)
19日 土		
20日 日		
21日 月		
22日 火		
23日 水		
24日 木	多様性推進セミナー(14:00～・あけぼのビル)	
25日 金	①第3回拡大アドバイザー会議(13:30～・ネット21熊谷) ②第4回労働政策委員会(15:00～・連合埼玉)	
26日 土		①自治労埼玉本部「第90回定期大会」(10:30～・さいたま共済会館) ②中央労働金庫労働組合埼玉統括支部「第26回埼玉統括支部大会」(10:00～・中央労働金庫埼玉ビル)
27日 日	北関東ブロック2026青年交流会(14:00～・28日・熊谷市)	
28日 月	ものづくり大学建設学科「応用ゼミ」連携講座(9:00～・ものづくり大学)	
29日 火	第3回地協議長・事務局長会議(14:00～・あけぼのビル)	
30日 水	「メンタルヘルスセミナー(基礎編)」(16:30～・あけぼのビル)	①埼玉県労働者共済生活協同組合「第455回理事会」(13:30～・こくみん共済 coop 埼玉推進本部) ②こくみん共済 coop 「第2回代表委員会」(14:00～・こくみん共済 coop 埼玉推進本部)

「男女平等参画、ジェンダー平等の推進、均等待遇、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」に向けた標語

◇優秀賞 決めつけない、そこから始まる多様性
(自動車総連埼玉地協 曙ブレーキ工業労働組合・須野原 徹)

連合埼玉HPへのリンク
「ジェンダー平等・多様性推進」▶





◆「令和8年熊本地震」による被災者の支援にむけて！
～一人ではできないことを、仲間とともに実現する～

2026年7月28日(火)16時27分頃、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、熊本県宇城市および氷川町で最大震度7を観測する地震が発生しました。

突然の地震により被災された皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。また、現在も不安な日々を過ごされている皆さまの安全と一日も早い生活の再建を心よりお祈りいたします。

熊本県は、本年4月に「平成28年熊本地震」から10年の節目を迎えていました。復興途上で再び大規模地震に見舞われたことにより、心身の不調だけでなく、復興への不安を訴える人も少なくありません。こうした不安解消と一日も早い復旧・復興にむけて、現地に寄り添った支援が求められています。

そのような中、地震発生の報に接し、私たちは改めて自然災害の恐ろしさと、いつ、どこで災害が起きるか分からないという現実を突きつけられました。また、私たちが忘れてはならないのは、災害からの復旧・復興には、行政や関係機関の力だけでなく、地域や職場における「人と人とのつながり」が大きな力になると考えています。

これまでの大規模災害においても、全国から多くの支援が寄せられ、労働組合も組織の垣根を越えて被災地に寄り添ってきました。困難な状況にある仲間へ声を掛け、必要な支援を届ける、こうした「連帯」の精神は、労働運動が大切にしてきた理念そのものです。

今回の熊本地震を、遠く離れた地域で起きた出来事として捉えるのではなく、私たち自身の問題として考えることが重要と捉えています。

埼玉県においても、首都直下地震など大規模災害の発生が想定されています。だからこそ、日頃から職場や地域で防災意識を高め、いざという時に組合員同士が支え合い、地域社会とも連携して行動できる関係を築いておくことが必要と考えています。

連合では、下記の取り組みを展開していく予定となっています。

【特別(緊急)カンパ】

・実施時期 2026年8月6日(木)～9月30日(水)

【連合救援ボランティア派遣】

・実施時期 2026年9月6日(日)～10月31日(土)

詳細が決定次第、お知らせいたしますので、構成組織組合員皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします

ます。

私たちは、今回の熊本地震に対する支援と連帯を大切にするとともに、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という合言葉を胸に、災害に強く、誰一人取り残さない社会の実現にむけて、組合員、地域の皆さまとともに歩んでまいります。

◆食料品消費税1%への見直し!～暮らしを守る減税を確かなものにしていくためには!～

物価高が私たちの暮らしを直撃しています。

食料品をはじめ、光熱費、日用品など生活に欠かすことのできないものの価格上昇が続き、「賃金は上がっても、暮らしが楽になった実感がない」という声が、職場や地域の現場から聞こえてきます。

春闘をつうじて賃上げの流れが広がっていることは、働く者にとって大きな前進ですが、物価上昇が賃金上昇を上回れば、実質的な生活水準は改善しません。賃金を引き上げる取り組みと家計の負担を、直接、軽減する取り組みを両輪で進めることが必要と考えています。

そのような中、高市内閣は、2027年4月から2年間、飲食料品の消費税率を1%とする方向を示しました。

しかし、私たちは下記の取り組みが必要と考えています。

○減税の効果を確実に家計へ届けることです。消費税率を1%に引き下げても、実際の販売価格にその効果が反映されなければ、生活者の負担軽減にはつながりません。政府には、事業者への周知や価格表示への対応など、制度変更にとまなう現場の混乱を最小限にするとともに、減税分が確実に消費者へ還元される仕組みを求めます。

○中小・零細事業者への十分な支援です。食料品を扱う小売業や飲食・サービス業などの現場では、税率変更に伴うレジや会計システムの変更、事務負担などが発生します。また、仕入れと販売の税率の関係によって、事業者の負担が増える可能性も指摘されています。減税によって、働く人や地域の事業者が新たな負担を背負うことがあってはなりません。

○財源と社会保障をどうするのかを明確にすることです。消費税は社会保障を支える重要な財源でもあります。だからこそ、減税の財源を安易に社会保障の削減や、現役世代への新たな負担に求めることには反対です。政府は、国民に対して財源の確保策を明確に示し、持続可能な社会保障制度を守る責任があります。

私たち労働組合が求めているのは、単に税金を安くすることではありません。働けば生活でき、子どもを育てることができ、老後にも安心を持てる社会をつくることです。そのためには、持続的な賃上げ、雇用の安定、社会保障の充実、そして物価高による家計負担の軽減を一体的に進めることが重要と考えています。

私たちは、減税そのものを目的とするのではなく、生活者の可処分所得を増やし、働く者が安心して暮らせる社会を実現することを目的とする政策を求めてまいります。

2026.8.18